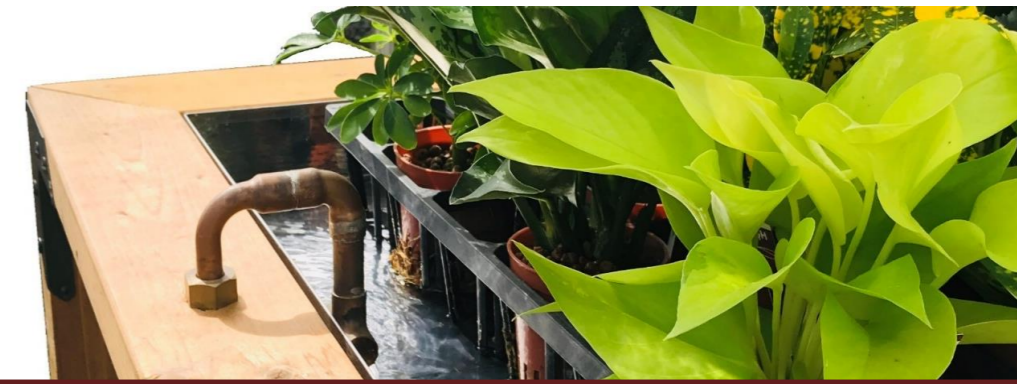


# Hydro Culture

## ハイドロカルチャー観葉植物の基本的な育て方



～ハイドロカルチャーとは～

ヨーロッパより導入された植物の栽培方式の一つで、土の代わりにハイドロコーンとよばれる粘土を焼成物を植え込み材として使用し、鉢底を水に浸けて管理する、清潔で水やり回数が少なくてすむ栽培方法（栽培された植物たち）を言います。ハイドロコーンは無機質ですので、臭い、虫の発生がほとんどなく、何度でも再利用できる環境にやさしい素材です。

鉢底に穴のないものは鉢として利用でき、ハイドロカルチャーで生産された苗はハイドロコーン以外にも様々な培地（木炭、カラーサンド、レインボーサンド等ゼオライト鉱石、ミスゴケ）で楽しめるのも特徴の一つです。

※ハイドロコーンとは

粘土を焼き上げて発泡させた煉石多孔質構造で、植物から出る酸を吸収し活性化させます。落ち着いた茶色のトーンはどんな観葉植物の見栄えも引き立ち、インテリアに最適です。



### 基礎的な3つの管理方法

#### ●光

薄いカーテン越しの光があたる場所が理想です。

観葉植物は原産地では大きな木の下やジャングルの中に生息しているため、直射日光にあたると葉焼けの恐れがあります。

#### ●水

器の高さの1/4～1/5量あたえて、水がなくなったら給水します。

夏場は5～7日間、冬場は10日～2週間程度におよそ1回の頻度です。

※品種によって水の吸収が早いものもあります。

#### ●温度

最低7℃以上の部屋に置いて下さい。

熱帯、温帯気候原産のものが多いため、原則過度な寒さ冬場の管理には注意が必要です。

※気温や水やり回数はあくまで目安です。

生き物は置かれている環境下によって状態も変化しますので、日々植物の状態を観察しましょう。

### その他注意事項、メンテナンスなど

#### ●葉水

室内は観葉植物の原産地に比べて乾燥しているため、こまめな葉水（葉の表裏に霧吹き等で加湿すること）は植物の生育に効果的です。また、害虫や病気の予防にもなります。ただし冬季の過度な加湿は凍傷の原因にもなるので、最低気温が7℃を下回る時には控えましょう。

#### ●風通し

植物の葉は空気の流れを感じて、光合成&呼吸の生命活動が活発になります。部屋の換気をした際に空気の流れがある場所は理想的です。またカビの発生予防にもなります。ただし冷暖房の風は乾燥しすぎるので避けてください。

#### ●肥料

ハイドロカルチャー専用の液体肥料又は栄養剤を、春・秋一回ずつ水やりの代わりに規定量与えてください。固形肥料や培地に挿すタイプは不向きです。

#### ●植替え

器の側面や表面の用土から根が視認できるようになった場合、植え替えのタイミングです。根を傷つけないように取り出し、一回り大きな器に植替えましょう。

#### ●害虫

葉に白や黄、橙、茶色等の小さな虫が張り付いている場合、ハダニ、アブラムシ、カイガラムシ等の害虫の可能性がありますが、発生した場合は湿らせたティッシュペーパー等で物理除去するか、市販の薬品を規定量散布しましょう。

#### ●枯葉 ～新陳代謝と病気の見分け方～

成長の過程で古い葉や枝が落ちることは、人間と同じ新陳代謝ですので、枯葉を見つけても慌てないようにしましょう。朴物で木の幹が柔らかい場合、天頂部分の新芽が枯れている場合は成長不良や病気のケース、管理方法が誤っている可能性が考えられますので、《基礎的な3つの管理方法》を見直してみましょう。

#### ●植物が枯れる主な原因

・葉や枝が乾いてカリカリになった⇒水不足

・木の幹や根から異臭がする、柔らかくなりブヨブヨしている⇒水のあたえすぎ

光量が温度が適切でない場合、植物が水を吸収できずに、上記の枯れ方をするときもあります。